

## 第六回 マウスピースの害

マウスピースを口の中に入れることにより、下顎の関節部とそれに相對する側頭骨の関節窩との間に隙間ができ、安静な状態を作り元の「さや」に戻そうとする考えです。

ところが実際はそのよううまく行かないのです。

顎関節図 1、2、3 により 1 回目うまく治ったかのように思いますが、2 回目に痛くなった時は全く口が開かなくなります。

マウスピースを入れることにより頭蓋骨の骨と骨との間に結合部（骨と骨が接するところ）が屈曲（骨と骨がくい込んだ状態）を起こして、原因不明の不定愁訴を引き起こします。

本来頭蓋骨は呼吸に合わせて屈曲→伸展→屈曲→伸展と繰り返しますが、全く動けなくなる状態を作り出します。

それが上下の歯を咬み合わせた時に上の前歯と下の前歯とが全く当たらなくなり、隙間ができ、さらに進んで奥歯の 1、2 歯だけが当たりオープンバイトという結果になります。

歯の矯正治療も同じで歯をワイヤーで固定するために頭蓋骨が屈曲・伸展ができなくて不定愁訴を引き起こします。

さらにマウスピースを入れることにより歯の咬み合わせが高くなり、首の骨、背骨の生理的湾曲が直になり機能抗進を起こし、精神安定剤または安定剤が必要になることがあります。（老人の場合は必要以上に高くすると 2 年以内には皆死んでしまうと聞いています。）

生理的湾曲にはスプリング作用があり、それなりに意味があります。（頭蓋骨に衝撃が伝わらないようにするとか）頭蓋骨がズレを起こせば首から下が皆ズレを起こすということです。

つまり頭蓋骨を正常にするためには顎関節と歯の咬み合わせが重要となります。